



メナムの夕日 ～ラーチャプルックの 花咲く都より～



バンコク日本人学校 川尻 年輝

タイ王国と聞いて、どのようなイメージをもたれるでしょうか。来タイ前は、「煌びやかな寺院」「ムエタイ」「象の国」が浮かんできました。しかし、タイ王国の魅力はそればかりではありません。世界遺産「アユタヤ遺跡」、「スコータイ遺跡」に代表される遺跡群は古のロマンに溢れています。また、イサーン地方（タイ東北部）には長野県にそっくりな山間地の美しさを感じられ、タイ南部の離島には真っ青な海があり楽園そのものです。また、様々な場所やイベント等で日本の文化を垣間見られることがあり、親日国ということを感じられます。例えば年に数回、日本の蒸気機関車（SL）が記念列車として運行されています。このSLは、日本からの戦後補償で送られた車両のうちの1両で、大切に整備され現役で活躍しています。紙面の関係で全てはお伝えできませんが、住めば住むほどたくさんの魅力を感じられる国、それがタイ王国です。



バンコク日本人学校は、大正15年（1926年）創立の盤谷日本尋常小学校を前身とする、世界の日本人学校の中でも一番歴史のある私立の学校です。正式名称は、泰日協会学校と言います。2019年度は、児童・生徒数2629名、84学級、教職員230名という日本国内でも中々見られない小・中併設の超大規模学校、世界一大きな日本人学校です。子ども達は、バス通学が多く（スクールバスの台数は約180台！）、市内の渋滞が激しいため、午前6時50分頃から学校に来ています。日課はあまり日本と変わりませんが、本校の特色として小学校低学年から専科の授業が入っています。中でも週1時間ずつのタイ語や英会話の授業は、ネイティブの先生が話す外国語に触れる貴重な機会となっています。また、タイの文化を学ぶ現地理解教育が年に数回あり、実際に校外に出たり、タイの公立大学附属小学校との交流学習会を行ったりしています。



日本人学校の仕事は独特なものも多く、特に1年目は見通しが持てず苦労しましたが、長野県で学んできたことを活かしてここまで来られました。特に教科化となった道徳についてはじっくりと研究を進めることができました。3年目の現在、振り返ると沢山の方々の支えがあり今があることに、感謝の気持ちで一杯です。派遣期間も残り僅かとなりましたが、改めて派遣国であるタイ王国に感謝するとともに、目の前にいる子どもたちの成長につながるよう精一杯つとめていきます。

日本人学校の仕事は独特なものも多く、特に1年目は見通しが持てず苦労しましたが、長野県で学んできたことを活かしてここまで来られました。特に教科化となった道徳についてはじっくりと研究を進めることができました。3年目の現在、振り返ると沢山の方々の支えがあり今があることに、感謝の気持ちで一杯です。派遣期間も残り僅かとなりましたが、改めて派遣国であるタイ王国に感謝するとともに、目の前にいる子どもたちの成長につながるよう精一杯つとめていきます。